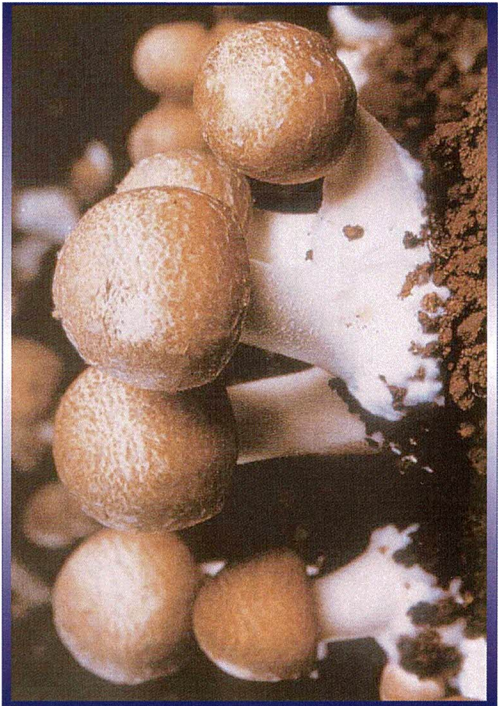


2004年（平成16年）		第45回 日本医学放射線学会生物部会学術大会 「担子菌抽出物の放射線防護効果と臨床応用への基礎的検討」 斉藤正好、他（千葉大医学部・放射線医学）	
三重大学地域共同研究センター 研究報告 第11号 「ヒメマツタケは担癌患者の免疫学的パラメータを改善する」 伊藤均、藤田典己、鈴木司郎、伊藤浩子、天野秀臣、柿沼誠 岩出菌学研究所、三重大学・生物資源学部、菌学薬理研究所		日本放射線影響学会 第49回大会 「担子菌抽出物投与マウスに対する安全性、放射線防護効果および抗腫瘍効果の検討」 斉藤正好、他（千葉大医学部・放射線医学）	
3月	Oxygen Club of California, 2004, Santa Barbara, USA, Hydrogen peroxide is a trigger of TNF-α production in co-culture with macrophages and intestinal epithelial cells stimulated with lentinan S. Kawakami and M. Mizuno ,Faculty of Agriculture, Kobe University	2007年（平成19年）	
9月	JBA・一日神戸大学(東京) 「キノコ由来多糖の小腸を介した免疫賦活化機構」 水野雅史 神戸大・農	日本フードファクター学会 「ヒメマツタケ抽出物によるアトピー性皮膚炎におけるIgE産生抑制」 水野雅史、他（神戸大院自科・植資、神戸大・農）	
10月	食品開発展2004(東京) 「キノコ由来多糖によるマクロファージ活性化機構」 水野雅史 神戸大・農	第127年会 日本薬学会 「姫マツタケによる免疫能活性と温熱治療増感に関する研究」 長谷川武夫、他（鈴鹿医療科学大学大学院）	
10月	5th International Conference on Systems Biology Immunomodulating polysaccharide in Agaricus blazei Murrill activates macrophages through Toll-like receptor4 Masashi Mizuno and Sachiko Kawakami ,Faculty of Agriculture, Kobe University	日本農芸化学大会 「ヒメマツタケ抽出物の経口投与によるNC/Ngaにおけるアレルギー抑制」 水野雅史、他（神戸大院自科・植資）	
2005年（平成17年）		2008年（平成20年）	
3月	Focus on Fungal Infections 15, Miami, USA, Polysaccharides purified from Agaricus blazei Murrill stimulate macrophages through Toll-like receptor 4 and do so more strongly through intestinal epithelial cells S. Kawakami and M. Mizuno ,Faculty of Agriculture, Kobe University	Food and Chemical Toxicology 46 Himematsutake extract (ABM-FD) : Genetic toxicology and a 3-month dietary toxicity study in rats T. Sumiya, et. al (Iwade Research Institute of Mycology) A. Broadmeadow, et. al (Huntingdon Life Sciences)	
3月	日本農芸化学会 平成17年大会(北海道) 「小腸上皮細胞Caco2細胞とマクロファージ様細胞RAW264.7細胞との共培養系における免疫賦活機構の解析」 中尾太、川上佐知子、水野雅史 神戸大・農	日本小動物獣医学会 (近畿) 「血様腹水を伴った卵巣腺癌の犬の1例」 杉本貫（すぎもとアニマルクリニック）	
4月	日本食品化学学会 第111回大会 「ヒメマツタケ抽出物のラット亜慢性毒性試験」 黒岩有一、西川秋佳、今沢孝喜、神吉けい太、北村泰樹、梅村隆志、広瀬雅雄（国立医薬品食品衛生研究所・病理部）	1st International Conference on Drug Design and Discovery Blazein (a new steroid) isolated from mushroom (Agaricus blazei Murrill) induce apoptosis in human lung cancer LU99 and stomach cancer KATOIII cells H. Itoh, et al (Faculties of Bioresources and Medicine, Mie University)	
6月	第7回 関西ハイパーサーミア研究会 「温熱増感剤（姫マツタケ、ボンナリネ）の抗腫瘍効果増強」 長谷川武夫、他（鈴鹿医療科学大学、保健衛生学部）	International Journal of Medicinal Mushrooms, 10 15-24 Oral Administration of Agaricus brasiliensis S. Wasser et al. (Agaricomycetideae) ExtractDownregulates Serum Immunoglobulin E Levels by Enhancing Th1 Response M. Mizuno, et al (Department of Agrobioscience, Graduate School of Aricultural Science, Kobe University)	
8月	日本食品添加物協会 既存添加物の安全性の見直しに関する調査研究 井上達 国立医薬品食品衛生研究所 安全生物試験研究センター	2009年（平成21年）	
Food and Chemical Toxicology 43 1047-1053 Lack of subchronic toxicity of an aqueous extracts of Agaricus blazei Murrill in F344 rats Y. Kuroiwa, et al. (Davision of Phthlogy, National Institute of Health Sciences.		医学と生物学 第153巻 第9号 ヒメマツタケの癌患者に対する臨床研究 余根培、他（上海市第十人民医院）	
Jpn Pharmacol Ther（薬理と治療）vol. 34 no. 1 「姫マツタケ凍結乾燥品」の連続摂取における安全性 梶本修身、他 総合医科学研究所		2010年（平成22年）	
Biochimica et Biophysica Acta Agaritine purified from Agaricus blazei Murrill exerts anti-tumor activity against leukemic cells M. Endo, et al. (Department of Biology, Faculty of Medical Technology, Fujita Health University School of Sciences)		Biotherapy Vol. 24 Agaricus blazei Murrill「ヒメマツタケ」のマウス肺腺癌に対する抗腫瘍効果、特にマクロファージ、クッパー細胞と補体系賦活作用 伊藤浩子、他（三重大学生物資源学部）	
2006年（平成18年）		第126年会 日本薬学会（仙台） 「姫マツタケによる温熱効果の増強」 長谷川武夫、他（鈴鹿医療科学大学・大学院）	
第22回 東海ハイパーサーミア懇話会			
第7回 北陸高温療法研究会 「姫マツタケ用による長期マイルド・ハイパーサーミアによるインビボ一系での抗腫瘍効果と延命効果」 長谷川武夫、他（鈴鹿医療科学大学・大学院）			

無断で複写・転写は出来ません

ヒメマツタケ多糖体の抗腫瘍性及び生物活性についての学術報告

この学術報告のヒメマツタケは、
日本食菌工業株式会社が使用しているヒメマツタケです。
学術報告は確定された種菌株で栽培された
ヒメマツタケを使用しています。
他のキノコでは、この研究データは使用できません。
この学術報告の著作権は、日本食菌工業株式会社に属します。



写真はヒメマツタケの子実体の部分です。
一般の植物に例えると花の部分になります。
カサが開く直前のものが一番薬理成分が豊富です。
カサが開くと子孫繁栄のために胞子に栄養分がうばわれ、キノコ自体は失われてしまいます。
カサが開く直前の写真の状態のキノコが、一番薬理栄養分が豊富です。
写真撮影1分後位にカサが開き出します。

ヒメマツタケ多糖体の抗腫瘍性及び生物活性についての学術報告一覧表

1980年 (昭和55年)		4月		医学と生物学 第114巻 第4号 259-261 ヒメマツタケの脂質由来多糖体の前投与によるハツカナゼミ Sreoma-180固型癌に対する抗腫瘍効果 伊藤均、他 (三重大・医・薬理学、動物実験施設)
11月		6月	原色日本新菌類図鑑. (1) 株式会社 保育社 150-151 263. ヒメマツタケ(一名カワリハラタケ)Agaricus blazei Murrill. 今関六也、本郷次雄 編著	
1981年 (昭和56年)		9月	第46回 日本癌学会総会(東京) 担子菌類由来多糖体の抗腫瘍性の研究(第38報)：ヒメマツタケ (Agaricus blazei) から抽出された多糖、核酸複合体及び脂質画分の抗腫瘍効果 伊藤均、他 (三重大・医・薬理学、動物実験施設)	
3月		1982年 (昭和57年)	第10回 糖質シンポジウム講演 ヒメマツタケから得られた抗腫瘍活性を示す中性多糖、酸性多糖、蛋白多糖および核酸複合体について 水野卓、他 (静岡大・農、三重大・医・薬理学、動物実験施設)	
1982年 (昭和57年)		1988年 (昭和63年)	第47回 日本癌学会総会(東京) 担子菌由来多糖体の抗腫瘍性の研究 (第39報)：ヒメマツタケ由来多糖体(FⅢ-2b)の抗腫瘍活性とその生物活性について 伊藤均、他 (三重大・医・薬理学、動物実験施設)	
11月		静岡大学農学部研究報告 38 29-35 制癌多糖類に関する研究(第12報)：二三の薬用キノコのβ-D-グルカン及びキシン質の抗腫瘍活性について 水野卓、他 (静岡大・農、三重大・医・薬理学、動物実験施設)	1989年 (平成1年) Carbohydrate Research Fractionation and Antitumor of the Water-soluble Residue of Agaricus blazei FruitingBodies 水野卓、他 (静岡大・農、三重大・医・薬理学、動物実験施設)	
1983年 (昭和58年)		Japan Journal of Pharmacology 33 403-408 Screening of Host-mediated Antitumor Polysaccharides by Crossed Immunoelectrophoresis Using Fresh Human Serum 志村圭志郎、他 (三重大・医・薬理学、動物実験施設)	1990年 (平成2年) Agricultural and Biological Chemistry 54(11)、2897-2905 Antitumor Activity and Some Properties of Water-insoluble Heteroglycans from “Himematsutake” the Fruiting Body of Agaricus blazei Murrill 水野卓、他 (静岡大・農、三重大・医・薬理学、動物実験施設)	
3月		第56回 日本薬理学会総会(大阪) 抗腫瘍性多糖の研究(第32報)：Agaricus blazei(ヒメマツタケ)より得られたATOMの抗腫瘍性と抗腫瘍機作について 伊藤均、他 (三重大・医・薬理学、動物実験施設)	1994年 (昭和59年)	第57回 日本薬理学会総会(京都) 抗腫瘍性多糖の研究(第33報)：ヒメマツタケより得られた抗腫瘍性多糖体(ATOM)の作用機作について 伊藤均、他 (三重大・医・薬理学、動物実験施設)
10月		第43回 日本癌学会総会(福岡) 担子菌由来多糖体の抗腫瘍性の研究(第34報)：ヒメマツタケ (Agaricus blazei)由来多糖体ATOMの抗腫瘍性について 志村圭志郎、他 (三重大・医・薬理学、動物実験施設)	1995年 (平成7年)	医学と生物学 第131巻 第1号 11-15 姫マツタケの抗アレルギー作用 伊藤浩子、他 (三重大・生物資源)
11月		医学と生物学 第109巻 第5号 299-302 ヒメマツタケ由来・抗腫瘍性多糖体による網内皮系機能の活性化 川出光生、他 (三重大・医・薬理学、動物実験施設)	1996年 (平成8年)	第43回 日本実験動物学会総会(新潟) 培養ヒメマツタケ多糖体ATOMとEhrlich腹水腫瘍細胞との結合性について 志村圭志郎、他 (三重大・医・薬理学、動物実験施設)
1985年 (昭和60年)		1991年 (平成3年)	アニデックス 2巻6号 241-348 BRMの癌分野への応用 伊藤均 (三重大・医・薬理学)	
10月		第44回 日本癌学会総会(東京) マウス腹腔マクロファージにおける抗腫瘍性多糖体ATSO及びATOMの経口投与の影響 志村圭志郎、伊藤均 (三重大・医・薬理学、動物実験施設)	5月	第38回 日本実験動物学会総会(札幌) 担子菌由来多糖体の抗腫瘍性の研究 (第42報)：多糖体の抗腫瘍活性とマクロファージより急速なC3放出との相関 志村圭志郎、他 (三重大・医・薬理学、動物実験施設)
1986年 (昭和61年)		1992年 (平成4年)	キノコの化学・生化学 学会出版センター 補体及びマクロファージ活性物質 志村圭志郎、他 (三重大・医・薬理学、動物実験施設)	
1月		医学と生物学 第112巻 第1号 29-32 ヒメマツタケ脂質画分の抗腫活性とマクロファージ活性 伊藤均、他 (三重大・医・薬理学、動物実験施設)	キノコの化学・生化学 学会出版センター ヒメマツタケ 水野卓 (静岡大・農)	
10月		第45回 日本癌学会総会(札幌) 担子菌由来多糖体の抗腫瘍性の研究(第37報)：ヒメマツタケ (Agaricus blazei)由来多糖体(ATOM)の腫瘍細胞への結合性について 志村圭志郎、他 (三重大・医・薬理学、動物実験施設)	神戸大学共同開発センター一年報 4 12-28 キノコの免疫応答細胞賦活物質の検索及びそれらの物質の分離と化学構造特性 水野雅史、他 (神戸大・農・医)	
1987年 (昭和62年)		3月	第34回 日本食品工業学会大会 ヒメマツタケの脂質に関する研究 関口晴夫、他 (日本大学・農獣医・食品工業)	
1980年 (昭和55年)		9月		第56回 日本癌学会総会(京都) ヒメマツタケ (Agaricus blazei)抽出物の抗腫瘍効果及びそのメカニズム 大志万浩一、他 (住友林業㈱筑波研究所、宮城県癌センター)
10月		Food Style 21 第1巻 第5号 25-30 きのこの効能研究ー最新の知見 伊藤均 (三重大・医・薬理学)	1998年 (平成10年)	第57回 日本癌学会総会(横浜) Agaricus blazei Murrill「ヒメマツタケ」菌糸体多糖体(ATOM)のマウスルイス肺癌に対する肺転移抑制作用 伊藤均、志村圭志郎、伊藤浩子 (三重大・医・薬理学、動物実験施設)
1999年 (平成11年)		7月	医学と生物学 第139巻 第1号 1-4 ストレプトゾントシン誘発糖尿病マウスに対するAgaricus blazei Murrill「ヒメマツタケ」の血糖降下作用 伊藤均、伊藤浩子 (三重大学生物資源学部水産生物化学教室 菌類薬理研究所)	
8月		第5回 日本癌コンベンション(千葉) 免疫機能不活性食品、ヒメマツタケの癌から生活習慣病に対する基礎的研究 伊藤均 (三重大医学部 医学博士 薬学博士)	2000年 (平成12年)	米国特許取得 「エイズ症状改善作用を有する経口投与剤」
10月		Biotherapy 誌 第14巻 第10号 1009~1015 ヒメマツタケの抗腫瘍効果と生物活性 (菌類薬理研究所・医学博士・薬学博士)	2001年 (平成13年)	医学と生物学 第142巻 第4号 61-66 ガラクトサミン負荷によるラットの肝臓害に対するヒメマツタケ細胞壁破砕抽出エキスの効果 伊藤均、伊藤浩子 (菌類薬理研究所・三重大学生物資源学部)
9月		第60回 日本癌学会総会(横浜) きのこ由来多糖によるマクロファージからのTNF-αおよびNO産生機構の解明 (神戸大学大学院自然科学研究所・神戸大学農学部)	2002年 (平成14年)	第49回 日本食品科学工芸会 ヒメマツタケ子実体からの熱水抽出画分に含まれる免疫賦活多糖の単離・精製とその作用機構 水野雅史、他 (神戸大学大学院・自然科学、神戸大・農学部)
		The 8th International Symposium of the Mycological Society of Japan (Part II) (日本菌学会国際シンポジウム) Antitumor effects and its other biological activities of Agaricus blazei Murrill “Japanese name：Himematsutake” 伊藤均、他 (菌類薬理研究所、三重大・生物資源、岩出菌学研究所)		The 8th International Symposium of the Mycological Society of Japan (Part II) (日本菌学会国際シンポジウム) Cytokine production from macrophages stimulated with polysaccharides in Agaricus blazei Murrill 水野雅史、他 (神戸大学大学院・自然科学、神戸大・農学部)
2003年 (平成15年)		東海実験動物研究会 キノコ類の薬理活性、特に「学名:Agaricus blazei Murrill 正式和名：ヒメマツタケ」の抗腫瘍活性について 伊藤均 菌類薬理研究所		三重大地域共同研究センター 研究報告 第10号 116-120 ラット肝臓害に対するヒメマツタケ細胞壁破砕抽出エキスの効果 伊藤浩子、他 (三重大・生物資源学部、菌類薬理研究所)
		医学と生物学 第146巻 第4号 61-64 コレステロール負荷家兎の実験的動脈硬化症に対するヒメマツタケ細胞壁破砕抽出エキス(CWC-ABME)の抑制作用 伊藤浩子、他 (岩出菌学研究所、菌類薬理研究所)		医学と生物学 第146巻 第4号 61-64 コレステロール負荷家兎の実験的動脈硬化症に対するヒメマツタケ細胞壁破砕抽出エキス(CWC-ABME)の抑制作用 伊藤浩子、他 (岩出菌学研究所、菌類薬理研究所)